

日本出版学会・出版産業研究部会

2022年1月13日

出版産業の30年・100年を振り返る

報告者

能勢
河野
八木

仁
高孝
壯一

ノセ事務所
河野書店
八木書店

講演中のお願い

- 15時より開始いたします。
- 講演中はマイク・ビデオをオフにしてください。
- 講演後に質疑応答時間を設けます。
- チャットにて随時質問いただいてもかまいません。
- 記録のために録画をさせていただきます。



日本出版学会・出版産業研究部会

2022年1月13日

平成の出版産業の状況と 新しい兆し

ノセ事務所 能勢 仁



自己紹介

- 1958年慶応義塾大学卒業

多田屋、平安堂取締役、 アスキー取締役出版営業統轄部長、

太洋社勤務、1995年ノセ事務所設立、出版コンサルタントとして今日に至る

- 主な著書

「平成出版データブック」－「出版年鑑」から読む30年史 ミネルヴァ書房

「世界の本屋さん見て歩き」「平成の出版が歩んだ道」（共著）出版メディアパル

「商人の機微」 中央経済社

「本を知る本」 ミネルヴァ書房

「本の世界に生きて50年」 論創社 他多数

はじめに：100年を振り返って
老舗出版社が実績を残す意味
明治・大正～昭和戦前の出版

時代	創業社数	比率	2019年売	シェア	主な出版社
明治期	52社	1.7%	2447億円	20.0%	講談社、新潮社、婦人画報社、第一法規、東洋経済新報社
大正期	47社	1.5%	3683億円	30.1%	小学館、集英社、文藝春秋、岩波書店、ダイヤモンド社
昭和戦前期	55社	1.8%	769億円	6.3%	光文社、NHK、朝日新聞社、主婦と生活社
計	154社	5.0%	6899億円	56.4%	
2021年	3,056社	—	1兆2237億円		

平成前期の出版市場

1989年から1998年まで

- 業界最高の売上
販売金額 2兆6980億円（95年） 販売冊数 48億冊（96年）
- 取次逆転（97年）
日販 8,133億円 トーハン7,992億円 46年間の首位終わる
- 専門取次全盛
鈴木書店 松沢書店 村上楽器 誠文堂 洋販、
地方・小出版流通センター 神田村取次輝く
- 大型書店全盛
94文教堂上場 95 '紀伊国屋書店・新宿南店1,400坪オープン'
'95ジュンク堂難波店1,000坪 '96ジュンク堂池袋店1,000坪
- 電子出版始まる
日販ほんやタウン トーハン本の探検隊
紀伊国屋書店KINOWEB TRC（図書館流通センター）
- 中央公論社蘇生

平成中期の出版市場

1999年から2008年まで

○ 取次受難期 13社倒産

1999年 柳原書店 36億円負債額

2000年 日販 赤字決算 165億円

土地売却、有価証券売却、4支社閉鎖、163人リストラ

菅徹夫、鶴田尚正社長 中興の祖となる

2001年 鈴木書店倒産 40億円 社員61人 債権出版社300社

直接要因 粗利7.2% トーハン11.29% 日販11.18%

地方取次 神奈川図書 41億円 金文図書 23億円 三星10億円

2000年 洋販 倒産 大学図書館、研究機関混乱 洋雑誌途切れる

○ 快拳 ハリーポッターの登場 発行年のみ書籍前年比増

● アマゾン上陸

平成後期の出版市場

2009年から2018年まで

- 取次の書店経営始まる 子会社化、関連会社化等
 日販：14書店 トーハン：18書店
- 取次受難 2013年 明文図書 自主廃業
 2014年 太洋社倒産 協和出版→トーハン傘下
 2018年 栗田、大阪屋→楽天傘下
 2019年 日本雑誌販売倒産
- 快拳 高額専門書売れる 「21世紀の資本」トマ・ピケティ著 5940円 8刷
 みすず書房発行
 「サピエンス全史」上下 各2052円 ユヴァル・ノア・ハラリ著 25刷 37万部
 河出書房新社発行 電子書籍も好調
- 2010年 電子書籍元年 12年アマゾン KINDLE 楽天KOB0 ブックライブLIDE0

出版産業状況の新しい兆し

- 反省・対応

1. 委託依存(返品制度)
2. 再販制度(定価制度)
3. 固定マージン(不変制度)
4. 支払サイト(慢性金欠症)
5. ライフスタイル(読書要因変化)

流通改善の新しい兆し

○ 業界

- 1 流通事情の悪化
- 2 JPROの動向
- 3 流通再編成

取次の新しい兆し

1. 出版社に運賃負担要請
2. トーハン、メディアドゥと業務提携
3. トーハン、大日本印刷と業務提携
4. 日販、関連会社の動き
5. 日販、トーハンの職制について
6. 直取次増える
7. 書協、雑協 22年度、土曜休配日 年37日
8. 出版社の自主活動

書店の新しい兆し

- 1 日書連加盟店減少
- 2 個人書店増える・・・「本の雑誌・5月号」
- 3 取次の書店M&A
- 4 書店の自主活動
- 5 紀伊国屋書店の存在

出版社の新しい兆し

- 1 コンテンツのデジタル化
- 2 海賊版サイト問題
- 3 アマゾン対応
- 4 スリップレス化
- 5 出版広告の変化
- 6 出版の国際性
- 7 4社の突出

図書館の新しい兆し

- 1 公共図書館の電子書籍対応
- 2 電子書籍と学校図書館

ご静聴ありがとうございました